

マザー・テレサの著書からの引用

- ①『援助している人たちをキリスト教に改宗させようとは私たちは決してしません。しかし私たちは神の臨在の愛を証しし、カトリック教徒であっても、プロテスタント教徒、仏教徒、不可知論者であってもこのより良い人——ただより良い状態——になれば私たちは満足します』

Life in the Spirit: Reflections, Meditations, and Prayers, pp. 81-82

- ②『キリスト教徒、イスラム教徒、ヒンドゥー教徒、信者でも未信者であっても、私たちと共に愛の働きを行う機会があります』[\[1, p. 359\]](#)

- ③『ただ一人の神がおられて、神はすべての者の神です…すべての人は神の御前に平等に見なされています。私がいつも言ってきたことですが、私たちはヒンドゥー教徒をより良いヒンドゥー教徒へ、イスラム教徒をより良いイスラム教徒へ変わることを助けるべきなのです…違う宗教の人たちが一緒に祈ることに私が問題を感じたことは一度もありません』

Mother Teresa: A Simple Path (Ballantine Books, 1995). Compiled by Lucinda Yardey; pages 31-32, 59, xix.

- ④『神は教会から離れてはおらず、すべての場所におられ、すべてのものの中におられ、私たちは——ヒンドゥー教徒やイスラム教徒、キリスト教徒であっても皆神の子どもなのです』

Mother Teresa: A Simple Path (Ballantine Books, 1995). Compiled by Lucinda Yardey; pages 31-32, 59, xix.

- ⑤『もう一人の伝記記者ナヴィン・チャウラは単刀直入に尋ねた、「あなたは人を改宗させていますか？」

「もちろん、私は人を改宗させています」と彼女は答えた。「より良いヒンドゥー教徒へ、より良いイスラム教徒へ、より良いプロテスタント教徒へ人を改宗させています。人が神を見出すと、神をどう礼拝するかは個人の自由なのです』

[“Mother Teresa touched other faiths,” Associated Press, Sept. 7, 1997.](#)

<http://www.wayoflife.org/fbns/rickwarren-judgenot.html> (this link has expired).

これはイエスさまが私たちに教えたことではありません。イエスさまは

『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません』(ヨハネ 14 章 6 節)

『わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。』(ヨハネ 10 章 9 節－10 節)と言われました。

- ⑥ 『“ホーム”で死ぬ寸前になっている人たちに、彼らの罪が許されるため、また彼らが神を見るための祝福が欲しいかどうか尋ねます。彼らが「はい」と答えると私たちはその祝福を与えます。私たちは彼らが神と共に平安のうちで亡くなるようにします。そして私たちが彼らに聖ペテロへのチケットを渡していることは、すべての人が知っています』

[\[Words to love by. Mother Theresa. Page 70.\]](#)

当然ながらこのような“祝福”は単に一種の秘跡です。福音ではありません。カトリック教会の儀式的な秘跡に救いの力はありません。

- ⑦ 『私のうちには多くの解決されていない疑問があります。(私は)それが冒瀆になるのではないかと恐れて明らかにしていません。もし神がおられるなら——私をお許してください。私が天国について思いをはせるとき——するどいナイフのように私に返ってくるはっきりとした虚しさがあるのです。…神は私を愛していると言われてきましたが——暗やみ、冷淡さ、空虚さの現実が大きすぎて、私のたましいには何も触れることができないのです』

David Van Biema, "[Mother Teresa's Crisis of Faith](#)," Time, September 3, 2007.
www.time.com/time/world/article/0,8599,1655415,00.html

- ⑧ “マザー”テレサは言明した。「その人が神と対面した時、私たちが彼を受け入れるなら、私たちは回心していくのです。私たちはより良いヒन्दゥー教徒に、より良いイスラム教徒に、より良いカトリック教徒に、私たちのまま良くなっていくのです…あなたの心の中にいる神を受け入れなくてはなりません。

(*Mother Teresa: Her People and Her Work*, by Desmond Doig, p. 156).

⑨ 当然のことながら、これらの信条は彼女が持っていたカトリックの信仰のためでした

(a)『祭司の言葉により、パンの小さなかけらはキリストの体、いのちのパンとなる』

(b)『祭司無しでは、イエスさまが共に行かれることがなければ、私たちの姉妹はどこへも行けませんでした』

(c)『祭司がいるとき、祭壇と聖櫃、また我々のイエスさまを出すことができます。祭司だけがイエスさまを私たちのためにそこ出すことができになります。…イエスさまはそこにお越しになりたいのですが、まず祭司がイエスさまを私たちに渡されること無しには、来ることはできません。このために私は祭司たちを非常に愛しているのです。イエスさまを私たちにもたらされる祭司さまがいなければ、今の私たちも、私たちがしていることもできないのです。』

1984年10月、国際司祭の会合におけるスピーチ

⑩ 1990年4月7日から13日の「ラジオ・タイムス」で放送された中で“マザー”テレサがヒンドゥー教の祭司を保護したという話が語られています。「彼女は自らの手で看病し、彼自身の神々と和解できるように死を迎えさせた」

⑪ 『わたしたちは、ヒンドゥー教、イスラム教、仏教、カトリック、プロテスタント、そのほかどんな宗教でも、それぞれの書かれた聖典に従って、彼らが望むものは何でも、したり与えたりしています。』

マザー・テレサ 日々のことば p.363

かつての福音派は、聖書的なキリスト教と、ローマ・カトリックなどの偽りの福音を区別できました。

マザー・テレサが公にすべての宗教が同じ神に行き着くと教えていたのにも関わらず、彼女の著作は今日、キリスト教書店でひろく取り上げられています。イエスは良い羊飼いは羊を狼から守ると言ったのに、現代は狼を導き入れてしまっています。

彼女が人をこの世的に助けたことは称賛すべきですが、彼女が信じ、福音的な教会まで広げたメッセージは悪霊から出たものです。

黙示録 17、18章にあるように、世界の宗教は協調し、一致しようとするので、私たちは真実の福音を大胆に語らなければなりません。

『この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私

たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。』使徒 4 章 12 節